

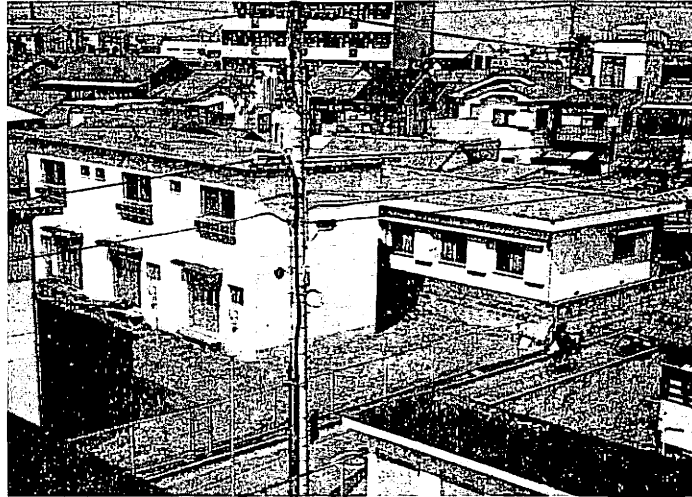


# ともひび

発行・城北地区社会福祉協議会(丸亀市大手町二丁目1番20号 丸亀市中央公民館 ☎24-1392)

城北地区人口  
 世帯数 3,214  
 人・口 7,837人  
 男 3,731人  
 女 4,106人  
 65歳以上独居者  
 318人  
 (3月1日現在)

丸亀税務署跡の城北公民館建設予定地(丸亀市御供所町1丁目)



## 城北公民館建設決まる

### 「10年度市予算」 用地取得費を計上

丸亀市の平成10年度予算に城北公民館用地取得のための予算が計上されました。平成四年に公民館建設方の請願をしてから六年。これで来春には城北公民館が出来る事が確実となったわけです。

今後は、本格的な設計に入る事になるが、設計に当たって、市が私たち利用する者の要望を聞く協議の場を設けてくれることを願っています。当初、周辺の民有地を買収して余裕のある敷地を確保して欲しいと願っていましたが、現在のところ入手が困難のようです。

城北地区住民が強く念願してきた公民館。完成の暁には、「ふれ合いの場、生涯学習の場」としての公民館を地区民皆で愛し、親しみながら大いに利用したいものです。

#### 福祉保健推進 委員が研修会

城北地区などの福祉保健推進委員の研修会が二月二十一日、市民会館で開かれ、加野芳正・香川大学教授の「ボランティア活動」についての講演がありました。

「次の世代の育成のため」高齢者の住みやすい地域づくりのため」など加野教授の体験や活動に基づく話が披露され、参加者は多くの示唆を得ました。

### 5月10日に設立総会

#### コミュニティー組織づくり

コミュニティーの組織化については前号の「ともひび」

りました。

三月八日には正・副部長

でお知らせしましたが、二月下旬に各部会を開き、部長、

画(案)、予算(案)の大綱が示

副部長、書記の選出を終わ

されました。各部会はこれに

基づいて四月十日までに細部をつめ全体としての事業計画(案)、予算(案)を決定し、役員会の討議を経て五月十日の総会に臨むことになりました。

総会では前記の両案を審議決定するほか、会計、会計監査、書記を選ぶ予定です。

会長には校区連合自治会の

細谷会長が、各部長がそれぞれ副会長に就くことが決まっています。

組織の愛称については、応募作品中で適当と思われるものがなく、次回の正・副部長会で、お互いに持ち寄った愛称を中心に協議、決定することになりました。



# がんばれ！小学新一年生

四月は入学シーズン。城北小学校でも六十七人の新一年生が誕生します。そこで、両親、祖父母から「がんばれ小学新一年生」のエールを、一年生を持つ先輩母親から両親らへのアドバイスを寄せてもらいました。

## 家族らからのエール

### 友達の輪の中で成長を

父から

我が子が今春、新一年生になる。今までの六年間と同様これからの学校生活もあつと、いままに過ぎていくのだから。一年生になる娘の生活習慣に関して、母親ほど心配し

ていない。ただ、最近の報道によくあるように、本人の努力を超えたところで事件に巻き込まれるような社会環境には不安を感じる。

### 一層、明るく優しい子に

母から

いよいよ我が子も城北小学校に入学する日が近づいてきました。

娘には、多くの友達を作り、その中で泣いたり、笑ったり、怒ったりを繰り返しながら成長していつてほしい。そして、他人の心の痛みがわかる人間になってほしいと願っている。

(二宮祐二)

幼稚園では先生の優しい指導のもとにたくさん友達もできて楽しい思い出がいっぱいできました。そんな中を卒園するのは寂しくもあり、ま

た元気で無事平穩に育った、と思う安堵感とが入り混じり複雑な思いです。最初の子供だけに何もかも手さぐりの子育てでしたが、あつという間の六年間でした。我が家も二月には第三子が誕生。四月からは小学校へとますます忙しくにぎやかになりそうです。

(小笹宏美)

### 夢のゴールを目指して！

祖母から

食欲旺盛、性格良好、でもちよっぴりはずかしがり屋で神経質などころがある孫(宏明)ですが、もうすぐ一年生。最近は何事にも興味があるらしく、疑問があると質問攻めで私を困らせています。

### 「なに？」をいつまでも

祖父から

次女(教員)の子ども四人(八歳・女、六歳・男、四歳・女、二歳・女)の面倒を見ながら、「思いやりのある子」「責任感のある子」に育ってくれたらと夢見ていますが、宏明はただ一人の男の子だから「健

「そのあしで、というのはどんなあし」ある朝の孫娘の「なに？」です。

「保育所に送っていったその足で高松へ行く……」。孫娘を車に乗せながら妻と話したことを聞いてのこと。

子供は成長するにつれて、何でも興味を示す。私は子供を二人育てたが、孫娘は私の子供以上に、いろいろと知りがるように思え、うれしくなります。

私はこの「なに？」が大好き人間。これまでの人生がいささか充実していたのは、多くの疑問を持ち、考えてきたため、と自負しています。孫娘の「なに？」には、できるだけ丁寧な答えよう家族一同、心掛けてきました。

その孫娘が四月から新一年生。いつまでも「なに？」を持ち続けてほしい。(香川 宏)

# 頑張った分、ほめよう

## 一年生の母親から

「行って来ますよ」と、

元気な声で学校へ向かう我が子。入学前、早く一人で通える一年生にならないかなと待ちわびたのですが、今では入学のころを懐かしく思います。送り迎えから解放され、ゆとりができた母親とは対照的に、子どもは名前ひとつとつても〇〇ちゃんから〇〇さん

と名字で呼ばれ、そんなことから子ども心に緊張感を覚えたことでしょうか。

初めは、これができていない、

お兄さん、お姉さんの演奏  
(城北小学校の体験入学から)



あれもできてないと親もあせり、つい子どもを責めがちですが、それよりもできたこと、頑張ったことをほめてやり自信を持たせることが大切だと思います。もし、それまでし

かっていたら見送る時には、優しいお母さんに变身し、笑顔で「行ってらっしゃい」と言いたいものです。  
(森川初代)

### 入所・入園・入学式日程

城北地区内の入所・入園、入学式の日程と新しく入る児童、生徒数は次の通りです。  
【平山保育所】四月六日、二十九人  
【土居保育所】四月六日、百二十四人  
【東中学校】四月七日、三十九人  
【城北幼稚園】四月八日、二十二二人  
【城北小学校】四月七日、六十七人

### 留守家庭児童会の会員募集

市教育委員会では、城北小学校で放課後、両親が共働きなどのために、家庭が留守になる児童を預かる「青い鳥教室」を開いています。▼対象

## 横山さんら5人 自治会貢献で表彰



横山俊男さん



平田葉子さん



七座清治さん



三木行雄さん



桑井明弘さん

平成九年度自治会長研修会が三月二十五日開かれ、城北地区から次の五氏が表彰を受け

ました。いずれも長年にわたって自治会長や役員を務め自治会活動に貢献しております。横山俊男(御供所町東部自治会長)、平田葉子(富士見町

オーハシ自治会長)、七座清治(富士見自治会副会長)、三木行雄(御供所町南部自治会副会長)、桑井明弘(土居町大倉団地自治会会計)

児童は小学一、二、三年生▼時間は午後五時まで▼土曜日、日曜日、祝日、八月十一日、二十日、春休み、冬休み、入

## 散歩保育で豊かな体験を

### 平山保育所長・小野怜子

平山保育所では、一年間を通じて散歩保育を行っています。五歳児が一歳児の手をとって車に気をつけながら歩く姿はほほえましいものです。

言って投げているのです。

散歩は足腰を強くし、交通ルールを知る機会ともなります。また、自然の移り変わりを肌で感じ、感動したことを言葉に出して話すなど総合的な発達を促すものです。

### 学園の現場から

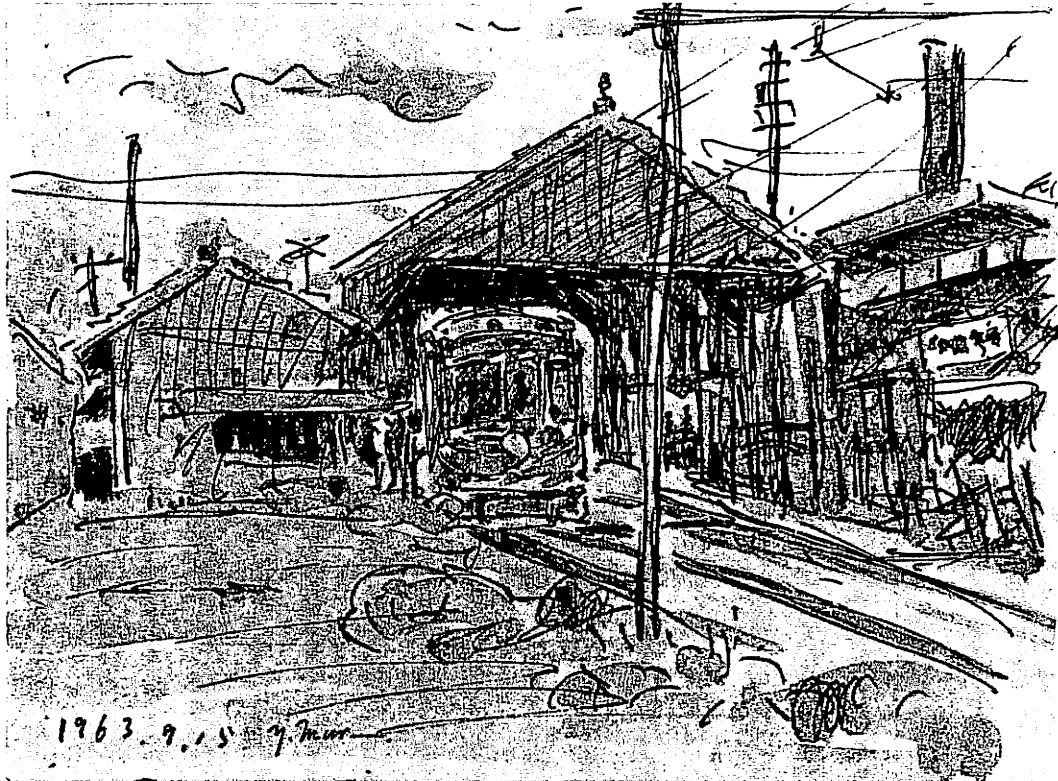
海の方に行った時、ゴミがたくさん浮かんでいて、海が汚れていることに気づいた子どもたちは、「お魚が死んでしまう」「かわいそう」などと声を上げました。このことがきっかけとなってゴミ問題に関心を持ち始めた五歳児はクリントピア丸亀を見学。そこで資源ゴミの再利用が出来ることを知りました。

豊かな体験を通して、感じ、考え、生きていく力を身に付けていけるよう、私たちは援助したいと保育に力を注いでいます。



豊かな体験が身につく散歩保育

# 町並み昔と今 ②



## (通町)電車(停留所)

琴参電鉄が、はじめて普通寺まで  
チンチン電車を走らせたのは、大正

十一年であった。当時は城の外堀が  
兵舎を巡って水をたたえ、柳の緑を  
写していた。

これは、右側の通町を南に突き当



たった所にあった停留所である。の  
ちに電車は金比羅まで伸びた。この  
図には一九六三年とあるから昭和三  
十八年で、この時、既に堀は埋め立  
てられ、電車も廃止最後の花電車で  
ある。  
(河野 智人)

## 絵・村上 泰郎

(丸亀市資料館所蔵)

## 丸亀署から感謝状

土器交番地域安全  
推進委員協議会

丸亀署は一月二十三日、警察活動に長年にわたって功勞のあった十個人・団体に感謝状と記念品を贈りました。このうち、城北地区関係では、地域安全功勞で土器交番地域安全推進委員協議会(藤田徳治会長)が表彰を受けました。交通事故防止など地元の安全活動に積極的に取り組み、安全で住みよい街づくりに貢献していることなどが評価されたものです。

## あとがき

冬季長野オリンピック。日本最初の金メダルに輝いた、あの小さき巨人、清水宏保選手の夢多き青少年に送る言葉が胸を打ちました。

「僕のような小さな者でもやれば出来る、ガンバレば出来るのだ」

入学・進学シーズンです。

学生のみなさんは、夢と希望とガンバリを胸に抱いて出発して欲しいと思います。(信)